令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Cグループ 大竹市立小方小学校 向井 咲子
指導学年 第2学年1組 30名

1 単元名及び教材名

ビーバーのひみつをつたえよう！「ビーバーの大工事」（東京書籍「新編 新しい国語 二下」）

2 児童観

本学級の児童は、アンケートによると67%が「国語が好きだ」と肯定的に回答している。33%の児童が否定的な回答をしており、その理由は、半数が「文章や言葉の意味が分からない（難しい）」であった。そこで、「多層指導モデルMIM」と「ことばのたつじん」を実施した。その結果、「多層指導モデルMIM」テスト①②の総合得点が標準点以下の児童は43%であり、その全員が「ことばのたつじん」においても正答率が50%以下であった。このことから、文章や言葉の意味理解における文字・音声・意味の一致ができていないために、文章を読んで内容を理解することに課題があると考えられる。

1学期に学習した「たんぼぼ」では、接続語や時間を表す言葉を頼りに、事柄の順序や時間の順序に気を付けて文章を読む学習をしている。順序を表す言葉に目を付けて、サイドラインを引かせるとともに、叙述に即して動作化をして内容を捉える学習をしてきた。「たんぼぼ」の単元末テストの結果は、70点以下の児童は20%（30人中6人）であった。読み込んできた文章であっても、問題の文章で何を聞かれているのかが分からないために、無回答や誤答になる傾向があった。

また、自分の知識や経験と結び付けて解釈することについては、「たんぼぼ」の学習の際、児童の経験には差があり、また言葉だけでは自分の経験と結び付かない児童も半数近くいることが分かった。そのため、全児童に共通する経験として、生活科のアサガオやミニトマトの栽培の際の動画を見せて想起させるなどの工夫を行った。しかし、「精査・解釈」や「考えの形成」の力を身に付けることをねらった単元を今年度はまだ行っていない。本単元では、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつ力をどの児童にも確実に身に付けさせたい。

3 指導観

指導に当たっては、ビーバーのことをよく知らない保護者や1年生にビーバーのひみつを学園祭で伝えるという言語活動を設定し、ビーバーの体の特徴や、巣作りの順序などに関する大事な言葉や文を探しながら読む必然性をもたせるとともに、ビーバーのすごさがより伝わるように表すという目的を明確にする。

単元の導入では、表紙のビーバーのダムの写真と題名について話し合うことで本文を読みたくくなるような教材との出会わせ方を工夫する。文章を読んですごいと思ったことを出し合い、「ビーバーのすごいひみつを教えたい」という意欲をもたせることで、読んで理解を深める必然性をもたせ主体的な学びを促す。教材文を読み取る際には、時間の順序や大事な語や文に着目させ、教科書に線を引きながら体の特徴とダムや巣の作り方についてワークシートにまとめるとともに、見つけたビーバーのひみつを書き出しておく。感想をまとめる際には、一番すごいと思ったビーバーのひみつを選び、その思いを伝えるには、まず自分自身が内容を深く理解する必要があることを確認する。また、文章の内容と既存の知識や経験と結び付けて解釈するとより身近に感じ実感を伴った理解となり、その上で自己の考えをもてることに気付かせる。記述の際の手立てとして、ワークシートに文型（書き出しや文末）を提示しておく。

学習の振り返りでは、単元のはじめに書いた感想と比べて、自分の体験と結び付けると考えが深まっていることに気付かせる。

また、単元の学習が始まる前から2年生教室前の廊下に動物の体の特徴やひみつに関する本を準備し、「読書ビンゴ」の取組をすることで、児童が意欲的に動物に関する本を読む環境づくりをしてお

き、それらの動物とビーバーを比較し、ビーバーのひみつについての考えを深めたり、ほかの動物のひみつを見付けたりすることができるようにする。

4 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学 習 内 容	評 価				
			知	思	主	評価規準・ <u>評価方法</u> 等	
一	1	○単元のめあてをつかみ、学習の見通しをもつ。 ○全文を読んで、不思議に思ったことや、もっと知りたいことを出し合う。					
二	2	○文章全体を3つに分け、文章構成をつかむ。(木を切って運ぶ・ダムをつくる・巣をつくる)					
	3 〜 8	○木を切って運ぶ順序を読み取る。 ○木を切って運ぶビーバーのすごいところを読み取る。 ○ダムを作る順序を読み取る。 ○ダムを作るビーバーのすごいところを読み取る。 ○巣を作る順序を読み取る。 ○巣を作るビーバーのすごいところを読み取る。	○			[知識・技能①] <u>観察・ワークシート</u> ・主語や順序を表す言葉に着目して、ビーバーがしたことについて順序を理解しているかの確認	
		9	○ビーバーのすごいところがより伝わるように文章にまとめる。(本時)		○		[思考・判断・表現①] <u>ワークシート</u> ・文章の内容と自分の体験とを結び付けて理解を深め、感想を書いているかの確認
		10	○ビーバーのすごいところがより伝わるように文章を修正する。			○	[主体的に学習に取り組む態度①] <u>観察・ワークシート</u> ・進んで、文章の内容と自分の経験を結び付けて感想をもち、学習課題に沿って、分かったことや考えたことを文章にまとめようとしているかの確認
三	11	○自分の考えを友達と交流し、感想を伝え合い、学習を振り返る。					
	12	○これまでの学習を振り返る。					
		(単元終了後) 児童がまとめた文章をもとに学園祭の発表原稿を作り、学園祭でビーバーのひみつを全校児童や保護者に向けて伝える。					

5 本時の学習（9/12 時間目）

(1) 本時の目標

ビーバーのすごいところがより伝わるように、文章の内容と自分の体験と結び付けて理解を深め、感想を文章にまとめることができる。 C (1) オ

(2) 学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1. 前時までの学習をふり返って、本時の課題を設定する。	☐ 自分が一番すごいと思ったビーバーのひみつは、どんなことですか。① ・長い時間もぐってダム作りをすること。 ・敵におそわれないためにダムを作り、湖を作ってその真ん中に巣を作ること。 ○前時に共有した掲示物を提示する。(選んだひみつに名前を貼り、人によって選んだひみつが違うことを視覚化したもの)	
2. 伝えたいビーバーのひみつについて、自分の体験と結びつけて感想を書く。	<div data-bbox="284 824 1155 927" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>㊦ ビーバーのひみつについて、すごさがたわるように文しょうにまとめることができる。</p> </div> ☐ 自分が選んだビーバーのひみつについて、もっと理解するには、どうしたらよいでしょう。 ・何か知っているものと比べる。 ・自分と比べる。 ◆「長い時には15分間も水の中にいる」すごさを自分と比べて理解を深めるなど、具体例を挙げる。 ☐ すごいと思ったことについて、どのくらいすごいのか、ほかの人に伝わるように、自分と結び付けて説明しましょう。② ・自分は(ぼくは・わたしは)、水泳のとき10秒しかもぐれなかったけど、ビーバーはふつうで5分ももぐれるからです。 ◆「自分は」の書き出しに続くように、これまでみんなで共有してきた体験の例を掲示物で提示し、自分に当てはまるものを選んで書くよう促す。 ☐ ビーバーにそんなすごいひみつがあるのはなぜですか。自分と比べて考え、分かったことを書きましょう。③ ・自分のように10秒しかもぐれなかったら、ビーバーはダムが作れないから、ダムを作るために長い時間もぐれるのが分かりました。 ○「ビーバーの大工事」の題名と関連付けるよう促す。 ○考えを交流するため、ペアトークの時間を設ける。 ◆「もしビーバーが自分のように(②で書いた内容)だったら、○○(大工事)はできるか」と具体的にイメージさせる。 ☐ 自分とビーバーを比べて思ったことを書きましょう。 ・15分ももぐったら <u>苦しうだ</u> と思いました。でも、ダムを作るためには一度もぐったら <u>長い時間水の中にいた方がいい</u> から、ビーバーは、もぐるのが上手なんだと思	思考・判断・表現① ビーバーのすごいところがより伝わるように、文章の内容と自分の経験と結び付けて理解を深め、感想を文章にまとめている。(ワークシート)

<p>3. 振り返りをする。</p>	<p>いました。</p> <p>◆これまでのワークシートに書いた感想メモから言葉を選ばせる。</p> <p>□感想メモ（すごいと思うひみつ・感想のみ）と比べて、どうですか。書いたものを交流しましょう。</p> <p>㊦ 書いてあることを自分とむすびつけるとりかいがふかまり、よりすごさがつたわる。</p> <p>○めあてにもどって、自分の体験を結び付けると理解が深まり、ビーバーのすごさがより伝わるようになったことに気付かせる。</p>	
--------------------	--	--

(3) 板書計画

<p>㊦</p> <p>㊧</p> <p>すごさがつたわる。</p>	<p>書いてあることを自分とむすびつけるとりかいがふかまり、よりすごさがつたわる。</p>	<p>思ったこと（すごい・びっくりした・上手だな・はたらきものだな）</p> <p>↓だから、どう思ったのかな</p> <p>×ビーバーは、自分とちがって十五分ももぐれると思いました。</p>	<p>④ 自分とビーバーをくらべて思ったこと</p> <p>十五分ももぐつたらくるしそうだと思いましたが、でも、ダムを作るためには一どもぐつたら長い時間水の中にいた方がいいから、ビーバーはもぐるのが上手なんだなと思いました。</p>	<p>③ そんなひみつがあるのは、なぜか、くらべて分かったこと</p> <p>自分のように十びようしかもぐれなかったら、ビーバーはダムが作れないから、ダムを作るために長い時間もぐれるのが分かりました。</p>	<p>② 自分とむすびつけてせつめい</p> <p>自分は、水えいのととき十びようしかもぐれなかったけど、ビーバーは、ふつうで五分ももぐれます。</p>	<p>① ビーバーのすごいところ</p> <p>ビーバーは、長い時には十五分間も水の中にいることができます。</p>	<p>ができる。</p>	<p>ビーバーのひみつをつたえよう！</p> <p>ビーバーの大工事</p> <p>⑥ ビーバーのすごさがよりつたわるように文のようにまとめることができる。</p>
--	---	--	--	--	--	--	--------------	--

6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

- ビーバーのことをよく知らない保護者や1年生にビーバーのひみつを学園祭で伝えるという言語活動を設定し、ビーバーの体の特徴や、巣作りの順序などに関する大事な言葉や文を探しながら読む必然性をもたせるとともに、ビーバーのすごさがより伝わるように表すという目的のもと単元全体の学習を進めた。
- 前時に「一番すごいと思ったビーバーのひみつ」を決めて、全体で共有し、その掲示物を使って本時につなげた。選んだ理由を共有した際、自分と比べてすごいと思ったことについて出た意見を残しておき、想起しやすくした。
- ワークシートに書き出しや文末の言葉を入れておくことで、まとめの文章を書くための支援とした。
- 板書に例文を残し、書き方のヒントとした。

さを実感するために、何秒息を止めていられるかやってみたり、頑丈で大きなダムを作ることのごさを実感するために、ダムの長さを校庭と比べたりすることで、自分にはできないことをビーバーはできると感じる事ができた。その他、ワークシートの②「自分とむすびつけてせつめい」の項以降をどう書いたらよいか分からない児童がいたため、ビーバーのすごいところを読み取る際に全体共有した友だちの意見を掲示物に残しておき、文章にまとめる際のヒントにした。それでも難しい場合は、個別に問いかけることで自分の考えを書く事ができた。

さらに、ワークシート①～④の項に書いた内容が、一つの文章としての整合性が取れていなかったり、言葉の不足があったりしたので、次の時間に自分で直し、友だちに読んでもらうことで、より伝わる文章にすることができた。

7 評価の実際

(1) 評価の具体【思考・判断・表現①】について

ワークシートの「①ビーバーのひみつ (文章の内容) ②自分と結び付けて (自分の既有的知識や体験) ③分かったこと (①と②を結び付けて深めた理解) ④思ったこと (文章の内容に対する思い)」の4つの項目において整合性が取れていれば「おおむね満足できる」状況 (B) とした。

①ビーバーは、夜にじごくをきして、	②自分は、夜のとまは、ねているけど、ビーバーは、夜にみんがでダムをつくっています。	③昼にはだり、いてる人に見つかると、もしれないが、夜にはだり、いてるのかわかりません。	④ビーバーは、自分とちがって、上るにじごくをきしているのが、大へん、だ、と思いましたが。	①ビーバーは、もぐる時間は、五分間、ながい、時間は、十五分間、もぐれます。	②自分は、五十びょうしかもぐれません。	③ビーバーは、家とかわつくるから、長くもぐれるの、が、わかりました。	④長くもぐれて、水の中、家を、作るの、が、かしく、ア、ア、ア、と、思いました。
-------------------	---	---	--	---------------------------------------	---------------------	------------------------------------	---

「おおむね満足できる」状況 (B) と評価した児童のワークシート

さらに、④が自分の体験と結び付けた文章全体の感想、またはさらに疑問や知りたい点を見出している記述になっていれば「十分満足できる」状況 (A) とした。

①ビーバーは、ダムを作った、水がせきとめ、られるとその内、かわにみすつみ、が、できて、その、みすつみの、まん中、に、すを、作る、のが、大へん、だ、と思いましたが。	②自分は、ダムを作った、水をせきとめ、水がうみ、が、できて、その、みすつみの、まん中、に、家を、作れ、ま、せん。	③ビーバーが、自分みたく、家に、まん中、に、作れ、な、か、た、り、て、ま、に、お、そ、れ、れ、て、し、ん、で、ま、つ、か、ら、ビーバーの、すの、作り、方、は、人、間、と、ち、が、つ、て、ま、に、お、そ、れ、れ、な、い、よ、う、に、く、い、う、し、て、い、る、の、が、ま、じ、り、	④ビーバーは、自分とちがって、みすつみの、まん中、に、すを、作、っ、て、い、る、の、が、ア、ア、ア、と、思、い、ま、し、た、の、が、か、し、こ、く、て、ま、じ、り、と、思、い、ま、し、た。	①ビーバーの、すの、入り、口、は、水、の、中、に、あ、る、つ、て、ま、じ、り、と、思、い、ま、し、た。	②自分、の、家の、の、入り、口、は、水、の、中、に、あ、る、の、が、ま、じ、り、と、思、い、ま、し、た。	③ビーバーの、水、の、まん、中、に、すを、作る、の、は、ま、じ、り、と、思、い、ま、し、た。	④ビーバーの、ま、じ、り、と、思、い、ま、し、た。	④て、ま、じ、り、と、思、い、ま、し、た。
---	--	---	--	---	--	--	---------------------------	-----------------------

「十分満足できる」状況 (A) と評価した児童のワークシート

(2) 児童の評価

本時終了時には、自分の体験と結び付けられていない児童が3名、選んだひみつと自分の体験が結び付いていない児童が2名で、「努力を要する」状況(C)は計5名であった。次の時間に見直しの視点を与えて個人やペアで見直し、続きを書いたり修正を加えたりして完成させることで、「おおむね満足できる」状況(B)の児童は27名(9割)、「十分満足できる」状況(A)の児童は3名(1割)となった。

8 成果と課題

(1) 成果

学園祭でビーバーのひみつを伝えるという目的を明確にしていたため、単元を通して主体的に学ぶ姿勢を持続することができた。また、ビーバーのひみつをまとめるワークシート(考えの形成)に児童がどのように書くか具体例を作成し、つまずきを予測して、上記のような工夫や手立てをすることにより、全員が伝えたいビーバーのひみつを選び、自分の既存の知識や経験と結び付けて感想をもつことができた。初読の感想と成果物の感想を比較させることで、自分の考えの深まりを実感させることができた。

(2) 課題

児童が選んだビーバーのひみつによっては、自分と結び付けて表しにくいものがあった。「かじる」「もぐる」「夕方から夜中まで家族そう出で」などは、自分にも経験があるためイメージをもちやすいが、「巣を作る」などは、経験がないため「自分にはできない」としか表現できなかった。また、文章を書くことに抵抗がある児童は、考えをもっている言葉をつないで書いて表すことができていなかったため、個別に支援する必要があった。

自分の力でまとめた文章を書くことができた児童の中には、「ビーバーの大工事」の文章を根拠にして分かったことではなく文章理解の支援として見せた「動画」を見て分かったことについて書く児童もいた。「文章の内容と自分の体験とを結び付けて、感想をもつ」というねらいから逸れてしまうので動画の活用にも注意が必要だと感じた。

(3) 今後に向けて

「考えの形成」を主にした単元づくりを通して、文章の内容と自分の体験を結び付けることで理解や考えが深まり感想をもつことができると児童に実感させることができた。今後も国語科教育の課題である「読書を通して考えを深める」ことや、「本や資料を活用して調べる」ことを意識して単元に入れ、そのよさを実感させる授業づくりをしていきたい。

「指導と評価の一体化」を意識した単元づくりを通して、児童の評価の具体例を作成することでつまずきに対する支援を想定して毎時の授業を進めることができた。

本学級では、読んで理解することに課題が大きくあり、初めは「考えの形成」までできるのだろうかという不安があったが、児童のゴールイメージである評価の具体を作成し単元構想や支援の工夫をすることで、目標となる姿に近づけることができると実感した。今後もレディネスを見取り補充するだけでなく、評価の具体例を作成することでつまずきを予測し児童の力を伸ばす、未来志向の支援に意識を向けていきたい。